「出会った人は、全部が恩師」と梅田さん

# 釧新郷土芸術賞に輝く

受賞者の横顔

□上□

財団法人・釧新教育芸術振興基金が贈呈する平成九年度（第二十六回）釧新郷土芸術賞の受賞者が決まった。今年は絵画の梅田一也さん、バレエの木戸亜樹恵さん、さらに特別賞として音楽（チェロ）の毛利巨塵さんに贈られる。郷土の芸術振興、文化向上に貢献してきた三氏の姿を紹介する。

## 絵画

## 梅田一也さん（三七）

（釧路町豊美一の九）

# 出会った人全部恩師

## 独学で古典的技法研究

「何歳で絵に興味を持ったかなど、覚えていないが小学校低学年のころには、とにかく描いていた」と語る。最初の転機は小学校五年生だった。遠縁の高校生と、レオナルド・ダ・ビンチの生涯を描いたテレビ番組を見たことだ。「十歳の心にダ・ビンチの作品が焼き付いて、写実性が人間の技（わざ）とは思えなかった」という。親にねだって油彩用の画材を購入した。油彩の基本的な技法については、ともに番組を見た高校生から手ほどきを受けた。

「今になって思うと、彼が絵についての最初の師だったのだろう」と振り返る。

浜中町霧多布中学校から釧路市内の高校に進学したが、美術クラブにも入らなかった。高校卒業後はサラリーマン生活の中で描き続けたが「周囲には趣味としか見えなかったでしょう」と話す。

### ルーベンスを徹底的に学ぶ

しかし、この中でもヨーロッパの古典絵画に強く魅せられ、独学、研究に励んだ。特にルーベンスらの技法を徹底的に研究した。ここから生まれた画風は、心象的な風景を、古典的な技法でキャンバスに表現するもの。それは写実性に優れ、スーパーリアリズムに挑戦している。

心に浮かぶ情景の中には、必ずといってよいほど少年あるいは少女の存在がある。「少年や少女のイメージは純真。それとも素朴かな」という。また「まだ、少年を棄て切れないでいる自分自身かもしれない」と語る。以前の作品を次作の一部に挿入する連作も数多い。

少年や少女の背景の山については「故郷の浜中町、霧多布の山や丘のイメージで」という。二年前には浜中町で作品展も開いた。

### 今年釧美展で80回記念賞

全道展には平成六年から毎年出品し、昨年と今年は佳作賞を受賞した。また一昨年の新制作展と今年の行動展で入選を果たした。そして今年、第八十回釧美記念展に出品した「奇跡の扉」で八十回記念賞を受賞した。

サラリーマン生活の中で独学に励んで来ただけに「誰に師事したなどとはいえない」としながらも「今までの人生の中で出会った人は、全部が恩師」と語る。